

2017年7月17日

大学行政管理学会  
会員各位

一般社団法人 大学行政管理学会  
会長 西川 幸穂 (学校法人 立命館)  
国際委員長 片岡 龍之 (学校法人 立命館)

大学行政管理学会 創立 20 周年記念事業「若手海外派遣事業－海外大学調査研修－」  
参加者募集について（ご案内）

昨今のグローバル化の中、海外からの留学生や外国人教員の増加、諸外国の大学をはじめとする様々な機関との連携推進等、大学職員の業務においても海外との関わりは日増しに多岐にわたり増大しています。また、大学設置基準の改正による SD の義務化に加えて、大学職員の専門職化も議論されており、海外の高等教育の動向や先進的な事例等への知見を深めることは、意義あることと考えています。

そこで、大学行政管理学会（JUAM）では、20 周年記念事業の一環として、若手職員にそうした機会を提供するため、以下の要領にて海外大学の視察・調査を目的とした海外派遣研修を実施いたします。諸外国における高等教育の実情や事例に直接触れる機会は、グローバル化を推進する職員の育成や自大学の施策等にも寄与するものと考えます。みなさまの積極的な応募をお待ちしております。

## <募集要項>

### 1. 派遣時期および期間・派遣先について

#### (1) 派遣時期

2018（平成30）年8月から9月末までの間に設定された任意の時期（但しお盆の時期を除く）。

期間は7日～8日間。

具体的な日程を後述する各コース単位で、派遣先および旅行代理店と調整のうえで、指定の時期に収まる形で設定していただきます。

#### (2) 派遣先

①米国 もしくは ②欧州 の2コースより選択。第1希望、第2希望を応募用紙に明記ください。

### 2. 公募人数および公募期間・選考方法

(1) 公募人数：計8名（1グループ4名×2グループ）

(2) 公募期間：2017（平成29）年7月17日（月）～9月15日（金）（JUAM メーリングリストにて告知）

(3) 選考方法：申請内容をもとに国際委員会にて書類選考を行い、派遣者を決定します。

(4) 通知方法：2017（平成29）年10月初旬頃、選考結果を国際委員長から本人にメールにて通知します。

### 3. 応募条件

- ・ 応募時において、年齢が25歳以上39歳以下のJUAM正会員である事務系職員であって、JUAM入会后3年を経過しており年会費の滞納がなく、研修参加に際して所属長からの推薦と了解が得られる者
- ・ 本派遣事業の趣旨・目的を理解のうえで、所属先での業務課題の解決等に資するための調査テーマを自ら設定することができる者。また、派遣前のコース単位での打ち合わせ等に積極的に参加できる者。
- ・ 派遣先の国・地域において、大学管理運営に関わる「将来JUAMの連携先となり得るような組織・団体等」の有無およびその適否についての簡単な基礎調査を引き受けることができる者。
- ・ 派遣先の国・地域の言語について一定の語学力（簡単な日常会話レベル）を有することが望ましい。

### 4. 応募方法・応募期日

#### (1) コースについて：

①米国、②欧州の2コースより希望の派遣先を選択。（第1希望、第2希望を明記ください）

#### (2) 調査テーマ等について：

所定の「応募用紙」の枠内に500字以内で記述してください。なお、調査テーマは現在の所属先における業務課題の解決等に資するような内容であることを原則とします。

その他必要事項を記入の上、期日までに国際委員長 [tkataoka@st.ritsumei.ac.jp](mailto:tkataoka@st.ritsumei.ac.jp) まで PDF にて送付ください。

(3) 応募期日                      2017（平成29）年      9月              15日（金）

### 5. 実施形態について

- ・ ①米国、②欧州の2コースを設定し、1コース4名にて実施します（期間中は4名による団体行動となります）。また、委員会より決定者の中からコース毎にコースリーダーを指名させていただきます。
- ・ 具体的な訪問希望先の決定および訪問先との調整、「将来JUAMの連携先となり得るような組織・団体等」に関わる現地での基礎調査の実施計画、渡航日程等、研修計画全体をコース参加者で協議のうえ、2017（平成29）年11月末までに、具体的な渡航計画を決定していただきます。
- ・ なお、参加者は必要に応じて、各コース担当の国際委員会委員からのアドバイスを受けることができます。

- ・この度の派遣事業の実施にあたり **JUAM** は株式会社 **JTB**（旅行代理店）と提携をいたしております。これにより、次のような支援・サービスを各コースおよびその参加者に対して直接提供します。

- 【1】（羽田・成田・関空等）から渡航先最寄りの国際空港までの往復航空便および査証等の手配。
- 【2】渡航先での国内移動の手配および現地宿泊（ツイン1室2名利用を標準します）の手配。
- 【3】派遣期間中の旅程の安全確保にかかわる緊急時の諸対応等。

- ・参加者はコース単位毎に、コースリーダーが中心となり渡航の準備や必要な諸手続きを旅行代理店との間で順次進めていただきます。また、訪問先とのアポイントメント・スケジュール調整・交渉等については、必要に応じて、担当の国際委員会委員からの支援も受けつつ、自発的に行ってください。
- ・旅行代理店を通じての現地での通訳、添乗員、同行者等の手配は原則として行いません。また、現地での市内移動については、タクシー等を適宜利用することとし、旅行代理店による車両手配は行いません。その他、旅程においては、旅行代理店が別途提示する約款等に従ってください。

#### 6. 経費の補助について

本派遣事業の予算より、以下の項目を対象として経費の補助を行いません。補助のための予算額は、1コース100万円、参加者1人当たり25万円をそれぞれ上限とします。

**JUAM** より補助の対象となる経費相当額を旅行代理店に直接払い込みますが、補助対象額が本派遣事業の予算額を超過した場合、ならびに後述する個人的な費用および個人的理由によるオプション費用については、参加者に対して別途負担を求めます。

- ・参加者の旅費（国内外での往復交通費・宿泊費）  
※但し、航空運賃はエコノミークラスを基準とし、宿泊費は1泊2万円を上限とします。
- ・旅行手続きに要する経費（査証取得費用等）
- ・**JUAM** が指定する海外旅行傷害保険の保険料

なお、参加者の飲食代等の個人的な費用（宿泊費にセットで含まれる朝食費を除く）や個人的理由による宿泊時のルーム変更オプション費用等は補助対象外とします。

#### 7. 研修終了後について（報告書の作成）

研修終了後、コースリーダーが中心となり、コースごとに参加者間での振り返りの機会をお持ちください。そのうえで、「研修参加報告書」（A4サイズ8ページ程度、任意書式による。但し、参加者全員での分担執筆とし、現地での訪問調査の結果や、「将来 **JUAM** の連携先となり得るような組織・団体等」に関わる現地での基礎調査の結果を必ず含むものとする。）をコース単位で作成のうえ、所定の期限（2019年1月末）までに担当の国際委員会委員まで提出ください。「研修参加報告書」は、**JUAM** 内外において広く公開されるものとします。また、研修終了後2年以内に、**JUAM** の年次総会・研究集会において成果発表を行なうことを義務付けるものとします（成果発表はコース単位で行なうことを原則とします）。

#### <注記>

本派遣事業は、単年度限りのものとなります。

以上

## 渡 航 計 画 書

平成 29 年 12 月 21 日 提出

メ ン バ ー	氏名 (所属大学)	リーダー 橋本 規孝 (立命館大学) 伊井 卓生 (名古屋工業大学) 橋本 昌紀 (名城大学) 高木田 翼 (東京電機大学) 森 康介 (名城大学)
研 修 テ ー マ	モビリティとモチベーションの関係性	
訪問希望先 (予定)	国名：イギリス、ドイツ、スウェーデン、オランダ	
渡 航 日 程 (予定)	2018 年 9 月 16 日～9 月 23 日 (8 日間)	

はじめに

今回の渡航先が欧州と設定された中で、今後の **JUAM** の連携先となり得るような組織・団体及び各自の調査テーマに即した大学の概要調査を行いました。その中で、我々 5 名は、各々の持つ調査テーマを生かしつつも、チーム単位の一つの共通テーマ (=研修テーマ) を設定し、以下に記するとおり、研修計画及び渡航計画をまとめました。

研修テーマは、「モビリティとモチベーションの関係性」とし、欧州大学間で展開されている **Erasmus+** を軸とした戦略的取り組み等について、現地での基礎調査を実施することとします。

なお、**Erasmus+** では、アウトカムズの一つに“職員の日々の業務におけるモチベーションと満足度の増加”が挙げられているため、これに関する欧州内の複数の国、大学・団体の取り組みを比較検討したいと考えています。

### 1. 研修計画全体 (概要)

上記研修テーマにおいて、訪問先との (今後の関係の構築含む) 適切な意思疎通、実りのある現地での基礎調査を行うため、訪問国の教育/高等教育制度及び訪問先の大学・団体の情報を収集し、訪問にあたっての基礎知識を習得します。

また、研修テーマに関連する日本の大学 (設置形態の分類含む) の現状と課題について、事前調査を行い、その調査結果をまとめ、訪問先の大学・団体に予め提示する予定です。

これらの準備を踏まえて、訪問先の担当者等へのインタビュー調査を行い、日本と欧州の大学における比較検討 (定量的・定性的) に役立てたいと考えています。

今回の調査研修では、特定の国や大学・団体に限定せず、欧州内の複数の国、大学・団体を廻ることで、各々の文化、歴史的背景等を踏まえた欧州の大学の特徴をより正確に把握できるものと考えています。

訪問先候補は、世界トップレベルに位置する大学の取り組みを参考にするため、**THE (Times Higher Education) 世界大学ランキング 2018** において 1 位から 200 位にランクインする大学、研修テーマ及び各メンバーの調査テーマに沿った大学、メンバー所属大学の協定校等の中から選別するとともに、**JUAM** の将来連携先となり得るような組織・団体についても検討し、次のとおりとしました。

イギリス：1～2大学及び1団体

(※候補：シェフィールド大学、バッキンガム大学、マンチェスター大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、レスター大学、Association of University Administrators)

ドイツ：1～2大学及び1団体

(※候補：ゲッティンゲン大学、ベルリン自由大学、ミュンヘン工科大学、ヨーロッパ大学、German Rector's Conference)

スウェーデン：1～2大学及び1団体

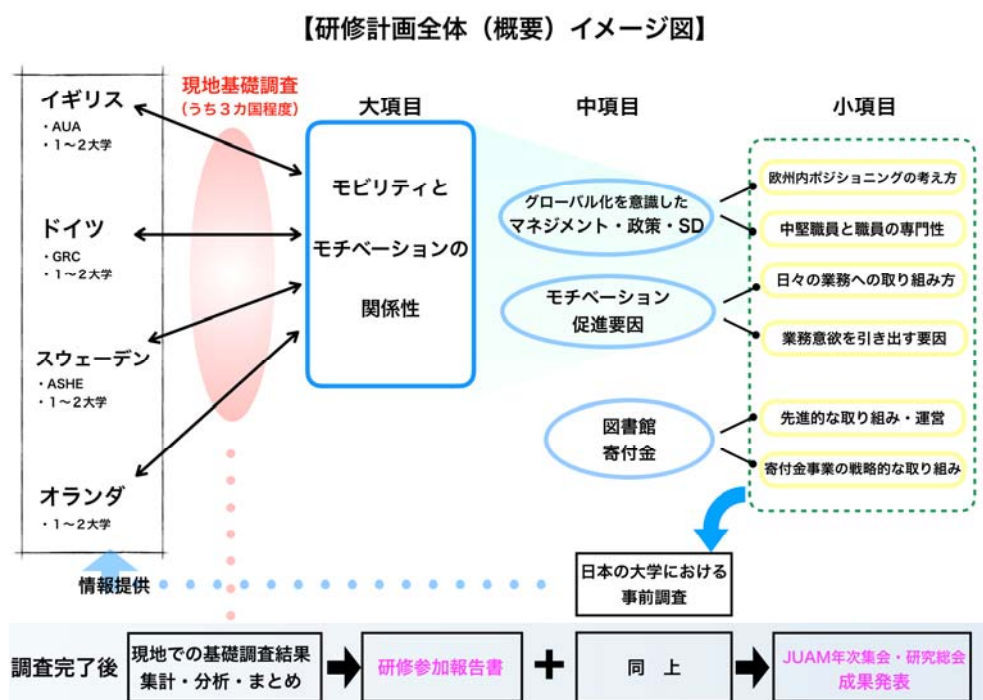
(※候補：ウプサラ大学、ルンド大学、Association of Swedish Higher Education)

オランダ：1～2大学

(※候補：アムステルダム自由大学、マーストリヒト大学、ライデン大学)

※今後の折衝が不調に終わることも考慮し、実際の訪問数を上回る候補先を挙げています。

調査計画全体（概要）のイメージ図は、次のとおりです。



## 2. 現地での基礎調査の実施計画

先に挙げた国、大学・団体において、より具体的な調査事項を設定し、これに適した職員等を対象としたインタビュー調査を実施するとともに、予め事前調査結果を提供することから、これに関連した各種データの意見交換等（各メンバーの調査テーマ含む）も実施したいと考えています。

また、インタビューのみならず、図書館をはじめとした施設・設備の見学を通して、その国々、大学等の文化に触れることも重要であると考えています。

そのうえで、研修後のJUAM研究集会・総会における報告をも踏まえ、できる限り会員諸氏への有効なフィードバックを行うため、国ごとの教育制度の違いや各大学の独自性のみならず、日本との共通的な大学運営に関するシステム及び制度等についても、足を運んで獲得する生きた情報を持ち帰って来たいと考えています。

現時点で候補に挙げた大学・団体の選別の理由は、次のとおりです。

(1) 大学

2018年4月に **International Staff Training Week 2018** を開催する大学や、自大学の職員をこの取り組みに積極的に派遣する大学、70カ国及び600を超える大学と協定を持つ大学、分野に特化（工学系）した多くのコンソーシアムを持つ大学、特徴ある図書館及び運営システムを有する大学、学生満足度が高く欧州では希少な私立大学等、研修テーマと各メンバーの調査テーマに即した大学を候補としました。

(2) JUAM の連携先となり得るような団体

国際的な高等教育機関間の協力体制を活動目的としている **German's Rector's Conference**、組織としての高等教育や職員と事務局との関係、海外の類似団体との連携活動を行っている **Association of Swedish Higher Education** を候補としました。

(3) イギリスAUA (Association of University Administrators)

イギリスの大学における現状と課題について、**Chair** または **Vice Chair** を直接訪問したうえで、我々が掲げる研修テーマも含めて、イギリスの大学職員が直面している現状や課題、それに対するAUAの取り組み等を調査します。

3. 渡航日程等

「2. 現地での基礎調査の実施計画」に鑑み、現実的には3カ国程度、同数以上の大学及び団体を訪問対象としています。

また、中欧（オランダ、ドイツ）のみならず、ブリテン諸島（イギリス）及び近年その先進的な教育制度で注目を集めている北欧（スウェーデン）への訪問も予定していることから、一部の日程で各自の研修テーマに基づく別行動や、「5. その他」で触れるとおり、渡航期間の取り扱いについてご検討いただければ幸いです。

なお、対象先の大学は、ターム制またはセメスター制により、9月下旬より学期開始となる学事日程に鑑み、次のとおり現時点での渡航日程等を計画します。

【渡航日程】

2018（平成30）年9月16日～23日（予定）（8日間）

【現地スケジュール】

1日目（移動日）

2～3日目 1カ国目 現地1、2大学及び団体への訪問

4～6日目 2カ国目 現地1、2大学及び団体への訪問

7～8日目 3カ国目 現地1、2大学及び団体への訪問、帰国

#### 4. 渡航に向けた準備（事前調査）スケジュール

今後については、本渡航計画に関するJUAM国際委員会での忌憚のないご意見等を踏まえ、次のスケジュールで、事前調査及び渡航に向けた訪問先との折衝を順次進めていく予定です。

また、事前調査の計画にあたっては、原案策定後、JUAMの関連する委員会等の確認を経て、建設的なご意見をいただき、適宜ブラッシュアップしていきたいと考えています。

概略スケジュールは、次のとおりです。

##### 【概略スケジュール（予定）※一部実施済み】

- |   |                   |        |  |
|---|-------------------|--------|--|
| ① | 平成29年11月23日       | 第1回打合せ | 調査テーマ及び計画のアウトライン（於：名城大学）               |
| ② | 平成29年12月9日        | 第2回打合せ | 調査報告、共通テーマ・渡航計画案（於：立命館大学）              |
| ③ | 平成29年12月17日       | 第3回打合せ | 渡航計画書（案）の確認（於：インターネット会議）               |
| ④ | 平成30年1月           | 第4回打合せ | 事前調査計画の概要案策定（その1）                      |
| ⑤ | 平成30年2月～3月        | 第5回打合せ | 事前調査計画の実施案策定（その2）<br>JUAM関係委員会等へ付議（予定） |
| ⑥ | 平成30年4月～5月        | 第6回打合せ | 事前調査の実施、訪問候補との折衝開始                     |
| ⑦ | 平成30年6月～7月        | 第7回打合せ | 事前調査結果のまとめ<br>訪問先の決定・事前調査結果の提供         |
| ⑧ | 平成30年8月           | 第8回打合せ | 旅程の詳細案検討<br>現地基礎調査当日の進め方（質問等含む）確認      |
| ⑨ | 平成30年9月           | 第9回打合せ | 渡航計画全般の最終確認                            |
| ⑩ | 平成30年9月17日～25日    |        | 渡航・現地での基礎調査実施                          |
| ⑪ | 平成31年1月末まで        |        | 研修参加報告書をJUAM国際委員会に提出                   |
| ⑫ | 平成31年9月または平成32年9月 |        | JUAM年次集会・研究総会にて成果発表                    |

#### 5. その他

上記のとおり、本調査研修にあたっては、欧州内で調査対象に偏りが生じないように、複数国の訪問を通し、俯瞰的に欧州の大学・団体を捉えることで、より研修成果が高まるものと考えております。

また、今後の訪問先候補の大学・団体との折衝においては、一部で不調に終わることも想定しており、場合によっては、渡航日程等の一部見直しに迫られることも考えられます。

そのため、渡航期間については、可能な限り数日間の延長等を前向きにご検討いただきたくお願い申し上げます。

なお、渡航期間の延長が可能となることで、本研修内容の充実度が増すことと、メンバーにおける止むを得ない業務都合等での調整（遅れての合流・切り上げ帰国等）においても、遺漏なき対応が図れるものと考えています。

以 上



# 調査概要



日本の大学職員によって運営されているJUAM（大学行政管理学会）の創立20周年記念事業の一環として、欧州の高等教育の動向や先進的な事例等への知見を深めるため、以下のとおり実地調査を企画しています。

数ある欧州の大学の中で、渡航メンバー（日本の各大学職員の選抜）による調査テーマ及び興味・関心のある事柄に基づき、世界大学ランキング及び各大学のホームページ情報を参考に、複数の大学を訪問候補先として挙げて、実地調査を行います。

なお、将来JUAMの連携先となり得るような組織・団体にも訪問予定です。

## 1. 調査テーマ

「欧州の大学職員におけるモビリティとモチベーションの関係性及び図書館の在り方」に基づき、大学職員の相互交流を図るInternational Staff Training Weekへの取り組みをはじめ、大学職員のキャリアパスの考え方、専門性の担保及び図書館の位置付けや先進的な取り組み等について、施設見学を含め実施調査を実施し、日本との比較検討を行う。具体的には、テーマに関連する質問事項（例：モビリティを通してスキル・キャリアアップを図る職員とそうでない職員とのキャリアパスの相違、モビリティを経験しようと決断した動機など）を中心に、対象となる大学職員の方へのインタビュー調査を行う。

## 2. 調査期間

2018年9月17日（月）～9月26日（水）のうち、1大学 約2時間を予定

## 3. 調査対象

人事部及び教学部門の管理職、教学部門に属する※モビリティ経験のある実務者、図書館員  
※転職経験者や欧州圏内の他大学等への出向経験者等

## 4. 今後のスケジュール

- ① 2018年6月上旬 訪問先大学等への打診
- ② 2018年7月 事前調査シートの送付
- ③ 2018年9月上旬 調査実施当日の詳細スケジュールの確定
- ④ 2018年9月中下旬 調査実施

## 5. 訪問者



氏名	橋本 規孝 (コースリーダー)	伊井 卓生	橋本 昌紀	高木田 翼	森 康介
大学名	立命館大学	名古屋工業大学	名城大学	東京電機大学	名城大学
所属部署	グローバル教養学部 設置準備室	経理課	薬学部事務室	学長室	キャリアセンター